

発問 ～「問い」を引き出し「主体的に取り組む」態度を育てる発問にするために～

学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問

発問は、児童生徒の思考や活動、主体的な学習態度を促すとても大切なものです。優れた発問は、児童生徒の学習意欲を高め、学習のねらいに迫り、課題解決を促す最も重要な教師の働きかけです。授業展開や思考の流れを意識した意図的・計画的な発問を工夫することで、児童生徒の「問い」や主体的な学びを引き出しましょう。

こんな授業になっていませんか

△柱となる発問が設定されておらず、一問一答的な質問を繰り返しながら授業が進んでいる。
△同じような発問を繰り返したり、発問後に付け足したりするなど、発問が練られていない。

○学習のねらいに迫る計画的な発問の工夫

単なる知識や経験を聞いたり、「はい」「いいえ」で答えられる単純な質問や一問一答形式の繰り返しではなく、学習のねらいに迫る柱となる発問を設定し、課題解決に向けた主要な発問と補助的な発問を組み合わせるなど、児童生徒の「問い」や主体的な学びを引き出す発問計画を立てましょう。

○簡潔で焦点化された発問の工夫

十分に練られた発問は、児童生徒の思考や活動を促すだけでなく、集中力や学習意欲の向上にもつながります。同じような発問を繰り返したり、児童生徒が思考中に付け足しをすることがないように、内容や表現を十分に練り上げ、簡潔で焦点化された分かりやすい発問を工夫しましょう。

思考を広げ、深める発問の工夫

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる発問を工夫することで、児童生徒が物事を捉える多様な視点を持ち、多面的・多角的に考えたり、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、新たな「問い」を見だし解決策を考えたりする学習を促しましょう。

こんな授業になっていませんか

△各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる発問が意識されていない。

○「見方・考え方」を働かせる発問の工夫

「見方・考え方」を働かせる発問を工夫することで、思考が広がり深まっていきます。

〈社会的事象の見方・考え方〉～小学校社会～

社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

〈見方・考え方を働かせる発問の例〉

・工業がさかんな地域は、なぜ、海沿いに多いのだろうか。

○学習過程や授業展開を意識した発問を工夫する

学習過程に応じた発問を工夫することで、思考を広げ深めていくことができます。

学習過程	発問の働き	発問の例
導入	興味・関心をもたせ学習意欲を高める ・実物・写真などの具体物を提示し、「問い」を引き出す。 ・予想させることで見通しをもたせ、主体的な学習を促す。	・○○について気付いたことは何ですか。 ・○○を解決するにはどうすればよいと思いますか。
展開	課題解決に向けて個人の学習・交流活動を充実させる ・多様な考えを引き出したり、思考を揺さぶったりする。 ・異なる立場で対話をさせたり、協力して課題を解決させる。 ・根拠や理由に基づいて思考・判断・表現させる。	・○○は本当に正しいですか。 ・Aは○○なのに、Bは△△なのはなぜですか。 ・○○と考えた理由は何ですか。
まとめ 振り返り	学習をまとめ整理したり学習の価値付けをする ・「めあて」に正対した「まとめ」を文章等で表現させる。 ・学習過程や今後の学習と関わらせて振り返らせる。 ・社会や生活、自分自身とのつながりを意識させて振り返らせる。	・今日、出来るようになったことや、次に頑張りたいことは何ですか。 ・○○について、もっと調べたいことはありませんか。